

一般質問

市民の声を市政に

※ 各議員のQRコードをスマートフォン等で読み取ることで、一般質問の録画映像をご覧いただくことができます。

※ 栗原信司議長は職責上（議事整理権）、監査委員の滝澤英明議員は申し合わせにより一般質問は行っていません。

（文責は、各質問者）

今定例会の一般質問は、新型コロナウイルス感染症対応のため、持ち時間を議員1人当たり30分に短縮して行われました。

一般質問に27人が登壇

石川市長の今後の市政運営について



山崎 進
議員

春日部市は、現在の最重要事項でもある、新型コロナウイルスへの対応を、継続してしっかりと取り組んでいく必要があります。また、本市のさらなる発展のためには、市長の手腕により、同時並行で動いている、未来に向けた大きな事業を、今後も着実に推進していく必要があります。この春日部市の未来がかかった事業をしっかりと着実に推進するためには、これまでの苦労を知り、関係機関との厚い信頼関係のある石川市長でなければ難しいと思います。そこで、石川市長は、10月24日に投票が決定した、市長選挙に、出馬する意思をお持ちかどうか伺います。

責任において、しっかりと取り組むことが、使命だと思っています。また、鉄道高架事業等、本市のさらなる飛躍のために欠かせない、未来に向けたまちづくり事業も大きく動き出しており、これらを着実に推進していくことが、春日部市の輝かしい未来のためには大変重要だと考えています。決して立ち止まることが許されない状況の中、さまざまな課題に立ち向かい、不退転の決意を持って再度市政運営を担うべく、10月の市長選に立候補したいと考えています。

新型コロナウイルスワクチン接種について



海老原光男
議員

当市では、令和3年3月15日から市立医療センターの医療従事者の方々にワクチン接種が始まり、5月3日から90歳以上の高齢者接種が5歳刻みで始まりました。現在、公表されている高齢者接種については、最後の65歳以上69歳未満の方への接種券の発送は

6月下旬、接種時期は7月上旬予定ですが、64歳以下の方は未定となっています。そこで、64歳以下の方への接種予定についての考えを伺います。また、接種の優先順位として高齢者の次は基礎疾患を有する方とあります。当市の予約方法では一般の方と同じタイミングで予約後、予診票で確認する方法しかないと思いますが、市の考えを伺います。

○健康保険部長
現在65歳以上の高齢者に対し、7月末までに接種を終えられるよう全力で取り組んでいるところであり、64歳以下の方への接種は、高齢者の接種の終了が見込まれ次第開始し、国の想定する来年2月末までに希望する全ての方々が接種を終えられるよう取り組んでいきたいと考えています。

また、基礎疾患のある方については、現在、国からも明確な方策が示されておらず、64歳以下の方と並行して進めるようにとされているのみですので、現時点では具体的な方法を示すことはできませんが、今後の国や県からの情報に十分に留意し、市医師会とも協議をし、適切に取り組んでいきたいと考えています。

子育て世代に 選ばれるまちに



松本 浩一
議員

子育て世代に選ばれるには、子育て世代への経済的な支援の強化と子育て環境の整備が必要です。

そこで、以下の提案の実現について伺います。

- ① 学校給食費の2子目以降の無償化
- ② 就学援助を生活保護基準の1・3倍から1・5倍へ引き上げ
- ③ 0～2歳児の保育料と3歳児以上の給食費無償化
- ④ こども医療費の18歳までの通院費無料化
- ⑤ 国税の子どもの均等割免除
- ⑥ 温泉水プールの建設
- ⑦ 公民館使用料の無料化
- ⑧ 図書館を直営に

○学務指導担当部長

① 4月から第3子以降の補助を開始したところで、第2子の無償化は考えていません

② 現状の認定基準を維持し、安定的に実施していきます。

○こども未来部長

③ 国の動向を注視していきま

④ 取り組みの効果等を検証しながら検討を進めます。



子育て世代に選ばれるまちに (イメージ)

○健康保険部長

⑤ 国において、未就学児を対象に均等割の5割を公費により軽減する法案を国会に提出しており、今後の動向を注視していきます。

○社会教育部長

⑥ 民間プール利用補助や学校プール開放を行っています

⑦ 負担の公平性から必要最小限の負担をお願いしています

⑧ 指定管理者と十分協議を重ね、市民サービス向上に努めます。

○市長

今後も子育て世代に選ばれるまちに向けて全力で取り組んでいきます。

コロナ禍の今こそ市内経済 活性化に住宅リフォーム 助成制度の創設を



今尾 安徳
議員

昨年からの新型コロナウイルスの猛威に本市も大きな影響を受けています。

緊急事態宣言やまん延防止措置などの自粛要請で、春日部市内の事業者にも大きな影響が出ているものと思います。

市はこの間、空き家リノベーション助成制度が住宅リフォーム助成制度の請願趣旨を包含するもの、として実施していません。

空き家リノベーション助成制度は、空き家対策として取り組まれており、令和元年度からの利用状況は市内事業者の活用も4割以下です。

一方、昨年から取り組まれている市内プレミアム付商品券では、6月2日時点で、換金額の5・7%、約5千万円分が、リフォームなどの設備関連の事業者で使われています。

コロナ禍で市内経済が停滞せざるを得ない今だからこそ、

この間、請願2回、決議が1回採択されている経済対策としての住宅リフォーム助成制度を今こそ取り組むべきときではないかと思えます。市長の考えを伺います。

○市長

議会の議決や採択された請願については、議会の意思として、その内容を真摯に受け止め、検討してきました。

ご指摘の住宅リフォーム助成制度については、決議および請願の趣旨を包含した、より充実した施策として春日部市空き家リノベーションまちづくり事業を推進しています。

市長の危機意識を問う。 ワクチン接種事業について



古沢 耕作
議員

新型コロナウイルススワクチン接種事業に関し、市民の皆さまからは、予約の電話が通じない、ようやくつながっても枠が埋まってしまい待たされる、などの多くの不安や批判の声が寄せられています。

その中で市長は「接種は順調に進んでいます」と何度も

SNSで発信しています。私は市長が市民の皆さま、また市職員と同じ危機感を共有しているのだろうかという疑問を強く抱いています。そのことを踏まえ、以下伺います。

① ワクチン接種予約体制の現状と課題について

② 予約を取るために本当に多くの方々が苦勞され、毎日のように、市民の皆さまから苦情を頂いているのが現状です。市長はそのことを把握されていますか。その上で、今でも本市のワクチン接種事業は順調、との認識ですか。

○健康保険部長

① 予約はコールセンター、LINEアプリ、インターネットで行いますが、当初コールセンターがつかない状況が続きました。また、予約情報が不足との指摘もありました。

○市長

② 本市の5月末現在の接種済み件数は、県内でもさいたま市に次ぎ2番目の早さです。予約も回線数を倍にし、会場で2回目の予約をサポートするなど柔軟に対応しています。

このほか

○東京五輪・聖火リレーの実施に関して

ワクチン接種について



井上 英治
議員



現在の市民の最大関心事のワクチン接種への市の対応を以下伺います。

①春日部市の高齢者ワクチン接種は遅いとの声が多いが他市比較ではどうなのか②タクシー代の2千円商品券先行発送の是非について③余剰ワクチンの対応について。鍼灸院、接骨院従事者は対象になるか④接種予約でネット操作代行を公民館等でできないか⑤駅東口地域には大型駐車場のある文化会館、粕壁小学校、春日部中学校、春日部女子高があるのに接種会場を設けなかった理由は

○健康保険部長

①医師会からの情報では、県内自治体の5月末までの65歳以上の接種済み数は、本市はさいたま市に次いで2番目に多い数となっています②接種券の送付時期が同一ではないことや、商品券は金券のため特定記録郵便として準備の時

間を要するので、接種券発送時期に影響を及ぼさないよう別々に送付しました③現状では優先接種者としての医療従事者に接種を行い、無駄にしないよう努めています。接骨院と鍼灸院の従事者は、国が対象としていません④担当課

においての電話や窓口相談のほか、各公民館等の窓口での職員による予約の支援を行っています⑤施設の状況や地域バランス等を総合的に勘案し、選定したものです。

このほか
○マイナンバーカード普及について

ヤングケアラーの実態を調査し、総合的に支援する体制整備を



卯月 武彦
議員



ヤングケアラーとは、大人がやるべき介護や家事を行っている18歳未満の子どものことです①昨年、県が高校2年生を、国も高校2年生と中学2年生を対象に調査を行い、結果を報告しています。市としても調査すべきと思うが、市の考えは②子どもと一

春日部市「新」災害ハザードマップについて



鬼丸 裕史
議員



ハザードマップが新たに改定されました。地震や洪水といった災害から自分の身を守るためには、備えを確認することが重要です。ただ、実際には何をどう備えればよいのかといったことも聞かれます。そこで、以下伺います。

①新災害ハザードマップ作成の経緯について②改定内容について③マイ・タイムラインの普及啓発について④今後の災害への備えについて

○市長公室長

①平成23年の東日本大震災や平成27年の関東・東北豪雨など、想定を超える大規模な災害の発生により水防法が改正されたことを受け、国と県で最新の浸水情報が公表されたことから、内容を一新して作成したものです②200年に1度起こり得るものから、1000年に1度起こり得る最大規模の降雨量を基に浸水想定区域を変更しました。また、



今回改定された春日部市災害ハザードマップ

縮尺を変更して地図面を大きくし、新たにマイ・タイムライン作成ページを設けました③広報6月号に特集記事を掲載したほか、学校の要請を受けて授業を実施しています。また、市内大型商業施設でPRイベントを実施し、啓発を行う予定です④災害時の被害を最小限にとどめるためには、基本は自助、共助を一人一人に心掛けていただくことが大切ですので、日頃から災害に備えていただけるよう、さまざまな最新情報を周知しながら、市全体としての防災力向上を図ってまいります。